令和　　8年　4月　27日

瀬戸内市議会議長
　　小野田 光 様

瀬戸内市議会議員　広野 真智子

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和　8年　4　月　20日 令和　8年　4　月　21日

研修会名	第1回市町村長等・議会議員特別セミナー
開催場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号）
研修目的・内容	4月20日 ・対話と挑戦で切り開く自治体経営 ・観光と地方創生 4月21日 ・哲学とAI　～AIと人間の関係～ ・現代の若者論
所感	1.　対話と挑戦で切り開く自治体経営 ～人口5万人以下都市の未来戦略～ 鹿児島県日置市　市長　永山 由高　氏 ●全国共通の問題 ①人口減少・年齢構成の変化。 人口の自然減は仕方ないと受け止め、市民にも説明する。社会増に、どのように力を入れていくか。また、取り組みを持続させていくか試行錯誤中。 材料となるデータを揃えて関係者で危機感を共有する。

瀬戸内市議会事務局
受
8.4.27
付
23

	②厳しい財政状況の中で、いかに民間の力を借りるか。 民間のリスクテイクに対して与信とスピード感で応える事を、全力で５年間取り組んだ。 ●子育て世代の父・母へのピンポイント施策 ①『雇用のミスマッチ解消』型　企業誘致 日置市の有効求人倍率は 1.05。全体ではすでに求人数が求職者より多く、業種によっては厳しい人手不足。この状態で製造業を誘致しても、既存雇用の取り合いになる。 最大の仕事不足の分野は事務職。事務系職種の希望者が一番高い。 それを踏まえて、企業誘致は本社を市に移してもらうことが重要。 経営者個人に目を向け、次の世代の社長にお願いしていった。 お金は無いが、最後まで一緒に寄り添い、間に立って交渉する姿勢が一番大切。 事務系職種の誘致に注力する事を市役所内でも徹底的に周知した。 入ってきたばかりの民間企業に不足するのは、地域情報とネットワーク。行政でしっかりとフォローしていった。 ②『できること、全部やる』子育て支援 日置市北部２町は JR、高速、国道が通り、人口が集積する。 南部２町は人口減少加速。南北問題が保育の現場でも発生している。 この問題は市が合併して 20 年間放置されていた。 対策は現状を把握し、北部の保育園はこれからも足りない状態になることが予想され、南部の保育園経営者へ北部にも園を作ってもらい、職員を廻してもらう施策。 保育士確保は市役所内に保育士支援センターを設置した。 ③『若者・女性が帰ってきやすい環境作り』 若者・女性にとって「ここなら働き続けたいと思える」街にすること。 庁舎内で「市長付　働き方改革担当」を公募。30 名超の職員を任命し、職場改革に着手中。 若者の大半が一度は市外に出るという客観的事実を内外に共有し、危機感を揃える。 市役所自身も変わる姿勢を示すことで、民間企業の知恵をもらいつつ、組織変革のノウハウが循環する環境づくりへ。 ・地元経営者と若者が出ていく理由を考える。若者と女性に選ばれる方法を考える。 ・生き方、働き方の理想像が更新される中で、「理想の職員像」をどう描くか。顔の見える行政サービスを目指す。 職員全員一人一人 30 分の面談。（２年かかった） 全自治会の訪問。（こちらも２年かかった）

【まとめ】
日置市は20年前に4町が対等合併した市。どのようにして一つの市としてまとめていくか…等、本市と似た課題がたくさんあり。また、力を入れている施策等も似ておりとても参考になった。本市の発展に活かしていきたい。

2.　観光と地方創生
　　元観光庁長官
　　公益財団法人 大阪観光局 理事長　溝畑 宏　氏
地方創生→住んでいる所に対して、住人が誇りを持つ事が大切。
例　イタリア→どこの地域でも世界市場に出せるものがある。
●「アジア№1の国際観光文化都市・大阪」をめざして
半径5mを幸せにすることが第一歩。
最大のポイントは人材育成
① 家庭、地域、学校会社、三位一体による、競争力、チャレンジ精神のある人づくり「夢」、「志」を持ったタフな人材育成。
② 「成功する人」「頑張る人」を褒める文化、風土。
③ 敗者復活のある社会
　一人一人が名刺をもてるようになる。高齢者が社会参加できる仕組み作り。
④ 温故知新

この国をどんな国にしたいか、この地域をどんな地域にしたいか語れるようになる事。
●大阪万博を通じてわかった、日本の観光ケース
温泉、健康美長寿、相撲、着物、忍者、サイクリング、フィッシング、鍾乳洞、日本酒。
・日本が世界に誇れるコンテンツ
インバウンド大成功。人口が少なくてもやっていける成功地域に直島。
・観光に大切なのは、グルメとショッピングとナイトタイム
夜の時間の有効活用。
例　観光スナック（地酒等）、ナイトヨガ、座禅。
日帰りではなく、1泊でも滞在してもらえる工夫。
空き屋、古民家を活用して民宿の充実。
・神社仏閣の活用。
【まとめ】
溝畑氏の生き方についての語りが多かった。
「挑戦に批判はつきもの。それでも走り続ける。大阪万博は通過点、

	目標はアジア１位の観光都市。」目標と目線は高く持ち、楽しい、面白いの感覚を大切に。すべては幸せにつながる。日々、好きなことを見つけてワクワクしながら仕事をすることが重要。 観光に成功している地域をしっかり見る。その土地にふさわしい強みが必ずある。 この講義を聞き、本市の観光の強みをもう一度考え、訪れた観光客の方々に最大限に瀬戸内市を楽しんでもらえるよう力をいれていきたい。 ３．　哲学とAI　～AIと人間の関係～ 京都大学 人と社会の未来研究院 特定教授　出口 康夫　氏 ●大手企業はアンデンティティクライシスを抱えている。 自分達は何なのか？ 例　NTT→電話業は一部。他なんでもやっている（鮭の餌も作ったりしている） 日本って何か？人間とは何か？自分とは何か？ AIを問うとは人間は何かを問う事。譲ってはいけない事は何か？ ・実存のベルトコンベア 常に人間は空間と時間と共にある。人生はベルトコンベアに乗っているような例え。時間は止められない。すべての実存はおわり（死）に向かっているが、目的ではない。目標はベルトコンベアに乗っている今にある。実存の価値を実現するにはAIをプログラムに組み込んでいく。 ・倫理の考え→黄金率「誰に対しても、自分にしてほしいことを人にする。してほしくない事は他人にしてはならない」AIのプログラムに組み込んでいく。 ・実現するように長期的な態度 復元力を付ける。長期的に持続するためには、短期的に脱線してしまうこともあるが、その時に戻る力、人間力を付けることが重要。 ●AIとは何か。 人工知能。情報能力高いが、人格、AIはパーソナリティを持っているのか。 人間→心、感情、生身の体。 AIが人間を使う側になれば、AIのバイアスになってしまう。 人間は人間で考え、AIはAIで考え、お互いのバイアスを相殺する。お互い違うという事が重要。 ●人間の物語は自分で紡いでいかなければならない。人生の物語は一人称化し、自分事にする。AIに問いかけアシストしてもらい、実

	存的な価値観を保つことが重要である。 【まとめ】 哲学的な考えの講義だった。自分とAIだけだと、閉じこもりがちな考え方になってしまうので、リアルに人に広げていき、総合的に考えて上手くAIを使っていく事が重要と感じた。 ４．　現代の若者論 日本大学危機管理学部 教授　西田 亮介　氏 ●日本の人口と若者 日本人口は年間５０万人くらい減っている。しかし、社会保険の破綻が考えられていないのは、就職氷河期世代の50代～40代が高齢者になる50年～100年を特定的な対策をすれば、人口は５千万人くらいに落ち着く見込み。 今の日本では子供が増えたところで人口は増えない。移民を大規模に受け入れるという政策はあるがあまり支持されず、人口が減って行くことを受け入れる選択をすると思われる。 ●日本の若い人。 政治にあまりかかわりたくない、政治離れ。 原因は→政治的有効性感覚が薄い。日本人は政治に参加しても動かせないと思っている。政策に民意が反映さえているか？のアンケートで、昭和～令和まで、時代が変わっても情勢が変わっても、一貫して同じ、反映されていないとの答え。 ●政治参加と若者世代 若い人の投票率が低いのは、年を重ねるごとに精神が成熟していき政治に関心が出てくる。年齢と共に関心が増え投票率が増える。 ・選挙とメディアの関係 テレビの視聴時間よりネットの視聴時間の方が50代でも上回る。メディアの中心はネットになった。 ●若者と政治に関する問題意識 選挙権は18歳に引き下がったが、被選挙権の年齢は引き下げられないのも、同世代が選挙に出られないのも投票率に影響しているのではないか。 学校で公民の勉強はするが、社会に出てから、現実政治に関する勉強が乏しい。リアル政治を学ぶ機会がなさすぎる。 日本の現実政治を学ぶ機会を増やしていった方がよい。学校でも政治や思想が偏らないことに注力しすぎている。 学校でも安心して、現実政治を教えられる環境作りが必要。 【まとめ】 国政でも地方でも、投票率が５割を切るというのは問題である。と

	いう事を常にお話されていた。フリートークのような講義で、今の政治の現実を受け止めて考えることができた。 【総合まとめ】 今回のセミナーは議員だけではなく首長の参加も多く、オンラインを合わせて、約 180 名の参加者。 岡山県からは玉野市長、新見市長も参加されていた。 ２日間を通して、これからの瀬戸内市を考えていく上での、考え方や視点が参考になり、今後の活動に活かしていきたい。